



# 同 窓 会 報



◆発行◆宮城県仙台第二高等学校同窓会 仙台市青葉区川内澁橋通1 ☎221-5651 (直通)  
 ◆印刷◆創文印刷出版株式会社 仙台市青葉区春日町8番34号

## 第 46 号



「雨か嵐か！雨中の応援」平成25年5月11日(土)第68回一・二高定期戦

### 目次

巻頭言……………	2
支部・同期会報告、近況報告、寄稿等……………	3
卒業生思い出の品、創立記念講演……………	11
支部OB会連絡先……………	12
評議員会・理事会・イベント報告……………	14
25年度同窓会総会案内……………	15
ゴルフ対抗戦、寄贈本、P同窓案内……………	16
会費納入口座のお知らせ、会費納入状況……………	17
校内環境整備基金の結果報告……………	18
【一般会計】24年度決算報告……………	21
【特別会計】24年度決算報告……………	21
24年度卒業式・同窓会入会、25年度入学式……………	22
定期戦……………	22
過去三年間の大学入試合格状況、在籍生徒数……………	23
訃報、25年度教職員人事異動、編集後記、 会報送付希望アンケート結果報告……………	24

巻頭言

「教育再生」と「変化への対応」

同窓会長 大井 龍司



「教育再生」

このところ「教育再生」という文言がメディアを賑わせている。一つは内閣に設置された教育再生実行会議（以下再生会議）で、ここでは主に教育現場でのいじめや体罰対策、それに地域教育の責任を教育長に一任するなどの提言がなされている。他の一つは与党の教育再生実行本部（以下再生本部）で、ここでは現内閣の掲げる経済再生には国際的に活躍する人材の育成が不可欠との観点から、大学の受験や卒業の際に英語能力試験TOEFLで一定以上の点数をとることを求めたり、理数系の教育の充実のために文系を含めて大学入試に理数科目を重視する、教育のI・T化を進めるためにすべての小・中・高校で一人一台、タブレット型の情報端末を配る、などの施策を促している。

これらの提言に、私は「おや？」と違和感を覚えるのである。経済学者で東大名誉教授の宇沢弘文氏は、人々が人間的に魅力ある社会を維持することを可能にするための装置として社会環境、社会的インフラ、制度資本の三要素からなる概念「社会的共通資本」を提唱し、なかでも制度資本の中の教育の重要性を指摘している。氏は、教育とは、ある特定の国家的、宗教的、人種的、階級的、ないしは経済的イデオロギーにもとづいて教育することは許されず、一人一人のこともが持っている多様な先天的、後天的資質をできるだけ生かし、その能力をより伸ばすことによって、一人の人間として成長することを助けるものであると、まさに至言である。

私の持つ違和感とは、再生会議で議論すべきことは、いじめや体罰、それに関連する教育長の権限、だけであろうか。戦後の公より個人を尊重するとの教育基本法導入に始まり、その後の学級崩壊、さらにはゆとり教育がもたらした生徒達の学習意欲低下の弊害など、わが国の現行教育制度は一人一人のこともが持っている知性、感性に對する適切な配慮を欠いているのではないかと思わざるをえない。

初等教育から高等教育に至るまで、再生会議や本部からの提言以外にも教育現場において改善を要する諸問題があるのではないだろうかという疑問である。さらに再生本部からの提言は、経済政策のための教育、将来正しい母国語を話せないエリートを育成しかなない英語偏重教育、持って生まれた文系資質の伸張を抑えかねない試験制度、PCゲーム狂の子ども達への更なるI・T教育、これらはすべて先天的な多様な資質を伸ばすことが要求される教育現場への押し付けであり、物事を深く思考することができない、また大局的に判断・洞察する能力を欠くスケールの狭隘な人間の育成につながりはしないかと危惧するものである。

「変化への対応」 会長就任後の一年間を振り返って」

本号から同窓会報（以下会報）がA4判へとリニューアルされること、また私が同窓会長に就任してからほぼ一年が経過したこともあり、この間の同窓会運営についてその変化をまとめておく必要があるものと考えた。冗長にならないために、主として変化内容のみ記述するが、何故変えなければならなかったのか、その根拠については会報の前々号、前号の関連記事を参照してもらいたい。

いうまでもなく世の中は常に変化する、これまでも、またこれからもその変化はずっと続くであろう。母校ならびに同窓会を取り巻く環境もその例外ではなく、何事も現状維持では済まされず、その変化に的確に対応しなければならぬ。母校仙台二高には素晴らしい伝統があり、同窓会ともどもそれを伝承しなければならぬことは言うまでもないが、その良き伝統を破壊することは愚行・暴挙以外何ものでもない。一方同窓会運営上、中には陳腐化したときたり、言わば因習と云えるようなものがあり、現理事会ではそれらを改善し、変革すべきものと考えた。このような変化には5つの対策、つまり「やめる」「縮める」「変える」「強化する」「新しく取り入れる」で対応することにした。

まず「やめる」である。従来年二回発行していた会報を、その内容伝達が年一回でも可能と判断、また無駄な経費を節減する意味合いから年一回の発行とした。年二回発行の理由が、それに年会費払い込み用紙を同封することによってその納入率を上げることが目的とこのことであったが、それは会費未納入会員の方々に再度払い込み用紙のみ送付することで解決させ、またタイムリーな情報提供が必要な場合のためにHPの充実を図った。

次に「縮める」である。全会員に会報の送付を希望しない旨回答頂くアンケートを施行した。その結果については本号別稿を参照願いたい。この結果が大幅な会費節減に繋がるとは思われぬものの、会報そのもの、あるいは会費納入率の低さへの意識を高める効果はあったものと考えている。

さらに「変える」である。年一回発行になる会報を現在のB5判から最近の標準サイズであるA4判に変えた。表紙、内容ともに母校仙台二高の会報に相応しいものにした。またこのところ形骸化している当番回期制の機能回復を図るべく積極的に呼びかけ、その効果が見られ始めた。さらに単に形式的としか思われぬ卒業式前日の同窓会入会式を、同窓会にとっては入學式に匹敵する重要行事と位置づけ、卒業生に強く意識づけるように工夫した。

「強化する」にも充分に力を尽くし、同窓会の縦・横の繋がりの強化を図った。平成二十三年度の評議員名簿を確認したところ、高校63回期中なんと42回期で評議員のところが空欄になっており愕然としたものである。横、つまり同級生間の繋がりを強くすべく理事全員でその整備に懸命に努力しているものの道半ばである。これからの同窓会運営の充実のために、会則第8条第5項を全回期評議員二名制に強化させていただいた。本年七月の総会での承認後実施されるが各回期のご協力をお願いしたい。また体育系、文化系を問わずクラブ同窓会の充実を促して縦の繋がりが

# 支部総会等 同期会 開催報告

## 支部総会報告

### 関西西北陵会 開催の報告

小松 寛明 (高33回)

の強化を図っており、さらには県内外の支部会、職域支部会には、時間の許す限り会長（会長の都合が付かないときには副会長）が出席し、母校を遠く離れた会員諸兄に母校や同窓会の現状をお知らせするとともに、支部会の継続的活動に感謝の意を表すことにしている。なお今後の目標であるが、母校の若人の目を世界に向けてのために海外支部の創設を目指す所存である。

締めくくりは「新しく取り入れる」であるが、男女共学制の影響もあって些か低調化している同窓会行事の活性化を図ろうと、七月総会時の特別講演や校内ツアー、北陵祭における同窓会ブースの設置、また対一高野球定期戦後のスタジアム内での祝勝会や対一高同窓会ゴルフ対抗戦などを新規企画した。さらには同窓会会員間の情報交換の場としてメーリングリスト〈nikodousoukai@yahoo.co.jp〉を立ち上げたので会員多数のご活用を期待している。

以上同窓会運営に極めて前向きで、かつ熱心な理事会メンバー諸兄が、評議員、常任委員さらには会員各位のご理解とご協力を得ながら進めてきたこの一年間の変化を振り返った。私を含めて現理事会は、同窓会のさらなる充実・発展のために力を尽くす所存であるので、会員諸兄のご支援ご協力と、同窓会活動への積極的なご参加を切に願うものである。

平成二十五年三月九日（土）、第十五回関西西北陵会を開催した。今年度は会場を初めて兵庫県は芦屋市とした（ホテル竹園芦屋）。ちなみに読売巨人軍の常宿。六甲山系を一望できる絶好のロケーションである。仙台から大井龍司同窓会会長、渡辺幸雄校長、関裕介同窓会理事に出席いただいた。出席者は二十九名だった。総会では校歌斉唱の後、東日本大震災追悼として、また昨年逝去された故平塚孝氏（中37回）慰霊のため黙祷をささげた。天江喜七郎関西西北陵会会長のあいさつに続き、大井会長、渡辺校長からあいさつをいただいた。大井会長からは同窓会の現状と改革についてお話があった。渡辺校長からは二高生の活躍、進学状況について説明があり、今年の二高のスローガン「凌雲」を紹介していただいた。関理事は宮城県仙台土木事務所勤務されており、特に橋梁や港湾の被災状況と復旧の進捗状況につ



いて説明していただいた。今回も昨年続き、関西圏の学生六名が出席した。懇親会の冒頭ではこの前途有望な学生たちの専攻分野や将来の目標を語ってもらい、先輩諸氏からはエールの熱い拍手が送られた。なお、関西西北陵会としては共学化後初めて女子学生二名が出席した。例年通り、元応援団の久保田利通氏（高19回）の先導でエール、凱歌斉唱でお開きとした。

総会以外にも小グループの宴会をやっています（時期・場所は不定）。関西方面に用事の方はご一報を。

## 同窓会巨理 二高会報告

庄司 恒一 (高22回)

去る四月十八日、平成二十二年以来となる巨理二高会が開催され「巨理郡内居住者」の会として再出発しました。来賓として渡邊幸雄校長先生、同窓会副会長鈴木誠一様、事務局長奥山雅敏先生のお三方にも華を添えていただきました。本会は、昭和五十二年から続いた学区制のために母校への入学に大きな制約がありました。三年前に全県一学区となり新たな後輩誕生の期待が高まっています。このような時に、山田芳廣会長（高10）の掛け声に呼応し約三十名が出席し、大いに盛り上がりました。

したひと時でした。会員の中には、大震災に見舞われ仮設住まいや他市町への転居を余儀なくされている方もおります。また、私達の通学の足であった常磐線の内陸移設も早くて四年後ということで、被災地復興にはほど遠いことを再確認する目もなりました。

総会では役員の補選が行われ、新副会長に手戸雅巳氏（高15）が選任されました。秋に予定の母兄学会の計画も了承されました。懇親会は、最高齢の清水誠次氏（中37）の乾杯が始まり、来賓の方々からは同窓会の状況や母校の近況について『北陵の四季』や映像を用いて紹介いただき、懐かしさとともに永い（？）時の流れを感じるものでした。特に、共学後の様子を初めて目にする会員も多く、女子の活躍にも大きな歓声が上がりました。菊地文武氏（高11）からは「山元町での鉄生産に始まる古代東北の物語」と題する研究のお話もあり、和やかな中にも充実



## 第31回仙台二高同窓会 岩手支部会開催報告

鈴木 恒男 (高5回)

日時：平成二十五年一月二十六日  
午後六時  
場所：盛岡メトロポリタンホテル  
標記の会が開催されましたのでご報告をいたします。  
仙台の本部からはお忙しい中、渡辺幸雄校長先生と鈴木邦夫同窓会副会長が遠路ご出席下さり、錦

上華を添えて下さりましたことに厚く御礼を申し上げます。尚同窓会長大井龍司先生からは今回は余儀ない事情で欠席されること（前回はご出席）、そして岩手支部開催にあたってのメッセージを託して頂きました。

ご挨拶で渡辺校長より平成二十四年度の仙台二高の概要と教育目標、進路概況、そして各種運動部、学芸部の活躍について「北陵の四季」を中心にご紹介頂きました。その中で昨年は昇龍二高、今年度は凌雲二高のテーマのもと文武一道として進んで居られると話されました。

鈴木副会長からは大井会長と一緒に同窓会組織を一層強力にし、同窓会の縦、横の連携を強化することを目標として頑張っていることを話され一同感銘を受けました。そして二高生徒諸君の活躍がスクリーンに映像として映し出され、この様子は活字では表現しきれない具体的な活躍像として我々の脳裏に焼き付かれた次第です。特に校内行事の「岩手山登山」のシーンが記憶に残りました。今後は是非これらの映像が各地の同窓会で紹介頂ければ我々OB一同の一層の励みになるものと考えます。

今回の岩手支部の総会では議題の一つであった副会長人事につきまして新しく高六回宮沢雄造氏をご推薦しご理解を頂いた事も

報告致します。

懇親会は恒例の自己紹介、近況報告で盛り上がり、あっと云う間に両ご来賓のお帰りの時間が来てしまいました。そして「凱歌」、「雨か嵐か」を歌って「時」は各人の胸の中で何十年も逆回転をしたのであります。

今回の支部総会の会員出席者は十二名でしたが、一番の先輩会員は高1回の佐藤秀雄氏であり、この点からも明治、大正は遠くなりにけりという印象を強くいたしました。

出席者名

- 高1回 佐藤秀雄、高3回 和田謙郎、高5回 鈴木恒男、高6回 宮沢雄造、高11回 小林秀樹、高12回 池野達郎、高14回 田山典男、高19回 千葉 知、高21回 吉江信博、高23回 橋浦礼二郎、高23回 渡辺昌洋、高25回 竹中陽一



### 海外同窓会支部第一号、ニューヨーク支部開設！

今般海外の同窓会支部第一号としてニューヨーク支部が開設される運びとなりましたので報告します。

実は渡邊幸雄校長の仙台二高生徒諸君の目を海外に向けようとの考えから、本年、生徒達のボストン、ニューヨークへの海外研修が企画されました。校長がその詳細を仙台二高メーリングリストで紹介したところ、そのことをニューヨーク在住で弁護士と同窓生、且英夫氏（高20回・下記略歴参照）の知るところとなり、且氏から渡邊校長宛に「喜んで当地での支援を」との連絡が入りました。渡邊校長から同窓会にもこの旨の知らせが入り、以前から大井会長はじめ現理事会が海外支部開設をとの構想を持っていたこともあり、早速会長から且氏への支部開設の依頼交渉がなされました。且氏は、その依頼を快諾、今般海外に於ける初めての同窓会支部開設が決定した次第です。NY支部長には且氏、その他同じく高20回の白田（旧姓今野）正樹氏ほかが会員に加わる

予定になっていきます。今後は同窓会報などでのNY支部活動報告に期待してください。

なお理事会としては、このNY支部を第一号として、さらに世界各地に支部を増設できればと考えていますので、本報告をご覧になった海外在住の同窓生諸氏、あるいはそのような同窓生をご存知の方は同窓会事務局までお知らせくださるようお願いいたします。（理事会）

略歴／且 英夫氏

1949年 兵庫県生まれ  
1968年 仙台二高卒業、大阪大学入学  
1971年 米国インディアナ大学留学  
1972年 大阪大学法学部卒業  
1984年 ニューヨーク大学ロースクールにて学んだ後、ニューヨーク州弁護士資格取得、ハーバードビジネススクール PMD

1987年 日商岩井ニューヨーク法人法務部を経てグラハム&ジェイムス法律事務所入社、日系ビジネス代表パートナー  
1995年 製薬会社エーザイ米国法人入社、法務担当上級副社長  
2008年 米国エーザイ財団理事、現在に至る。

以上

### 同期会報告

#### 『在京三六会同期会』

高橋 成彬（高13回）

在京三六会は首都圏在住者も含む仙台二高・昭和三十六年卒業（高13回）の同期会であり、仙台を本拠とする三六会の東京支部的な存在としてその歴史はかれこれ三十年にもなり近年は恒例となった新年会を通じ旧交を温め合っている。

今年も二月二日（土）正午より新宿・住友ビル四十七階の『東京住友クラブ』を会場として新年会を開催した。今年は年明けから例年のない厳しい寒さが続いていたが、この日だけは最高気温二十度を超える陽気に恵まれ、仙台から特別参加で針生承一君、菊池康夫君、高橋和男君、菅野昭雄君の四名が駆けつけてくれ、総勢二十八名出席の賑やかな会となった。

特に今回は、昨年から今年にかけて全員が人生の節目である古希を迎え益々意気軒昂という感じ、添付写真のとおり二高時代の面影をちよっぴり残しながらも皆「熟年らしいいい顔」になったものだと感じた次第である。

会は美味しい料理と地酒銘酒などを味わいながら終始和気藹々の雰囲気のもと、肩の凝らない欲談が続き久しぶりの再会とお互いの健康を喜び合うことができ誠に有



意義なひとときであった。  
 今回は、初の企画として、針生承一君、川村人志君、津田信勝君に特別スピーチをお願いし、それぞれ興味深い話を聞くことができた。  
 宮城スタジアムの設計など国内屈指の建築家である針生君からは、『東日本大震災から二年』と題し、今なお大きな関心事となっている被災地の復興対策の現状と問題点や矛盾点をわかりやすく解説してもらい、加えて自然災害から身を守る留意点の話もあって大いに勉強になった。  
 三協立山アルミ(株)取締役会長の任期を終え相談役になった川村君からは、会社の経営のさまざまな回顧談に加え現在は高岡商工会議所会頭、観光協会会長として地域振興に情熱を注いでいる近況などをじっくり話してもらった。  
 また、古都・鎌倉をこよなく愛

しその歴史にも造詣の深い津田君からは、『春の鎌倉散策』と題し世界遺産立候補中の鎌倉の魅力詳しく聞かせてもらった。  
 同期の希望者を募り津田君を案内役とした鎌倉散策をぜひ実現させたいと幹事一同意気込んでいるところである。  
 新年会は記念写真撮影で一息いった後、二高同窓会理事の高橋和男君から同窓会の現状報告、そして出席者ほぼ全員による近況スピーチと続き宴もたけなわではあったが、結びに『校歌』と応援歌『雨か嵐か』を声高らかに斉唱し、次回の再会を約しながらお開きとなった。  
 次回もひとりでも多くの同期諸兄出席のもと益々元氣溢れる在京三六会として親睦の輪がさらに広がっていくことを願ってやまない次第である。

### 北陵二期会

尾形 朝可 (高2回)

私たちは、昭和十九年四月に仙台二中に入學し、二十五年三月に仙台二高を卒業しました。但し戦後の混乱期のために、転校したり、転入した者もかなりの数にのぼります。おおよそ二百五十名以上の同期生がいると思われず。  
 私たちは、菊地哲丸さんを中心として、昭和五十五年第一回の同期会を催し、以来昨年まで三十二回、多い年は七十名が参加しました。しかし、皆が八十一歳と高齢になったので、昨年でやめることにしました。その代わり、平成十八年十月から始めた月一回の有志による昼食会は、今年四月で六十三回を数え、参会者は平均十名を越えています。しかも、しばしば二高時代の思い出話で盛り上がります。この昼食会は、私たちが健在な限り、ずっと継続するつもりです。  
 私たちの同期生で鬼籍に入った友は、十名以上居ります。その中で、私にとってとても残念なことは、今年の一月に、直木賞作家の常盤新平さんが、闘病の末、肺炎で無くなったことです。彼とは、何十回も文通を交わし、新刊の著書を送ってもらいました。彼は、二高時代に、当時英語の老講師だった佐伯孝平先生(元仙台高等工業学校教授)の授業でO・ヘンリーの短編に出会い、早大英文科に進み、作家・翻訳家として名を成したのです。教師の影響力の凄さを、元英語教師としては痛感させられます。  
 世評の高い最後のエッセイ集「明日の友を数えれば」の中で、常盤さんは、仙台二高の「英文解釈、英作、英文法の先生は、みな教えるのが上手だった。」と書いています。全く同感ですが、私個人としては、英語の発音の素晴ら

しかった山家保、堀見宗男の両先生を折に触れて、なつかしく思い出します。  
 仙台二高は、今や東北一の進学校になりました。この事実は、母校に九年勤めた私にとっては、たいへん嬉しいことです。さらに、庄司恒一さん、渡邊幸雄さんと、二代続いて母校の校長が、私の教子であることは、私にとって無上の喜びです。  
**首都圏北陵四期会  
 「卒業式」並びに  
 「傘寿祝賀会」**  
 渡邊 三郎 (高4回)  
 平成二十四年十月二十九日、「五反田東興ホテル」にて標題の会を開催しました。出席者三十二名(内仙台より四名、岡崎より一名)が、一堂に会し盛大にして楽しい会でした。  
 高四期も八十歳を迎え、「遂に時至れり」と一区切のもと、最後の会として「卒業」と「傘寿の賀」とした次第です。  
 第一部として、開催の挨拶、主旨説明に始まり、更なる「米寿」をめざしスタートする。「仙台二中・二高・在京同窓会」会長の祝辞を拝聴、「二高校長の祝電」の披露に始まり、永年の功労者表彰等肅々と進め、第二部「傘寿」のパーティーに入り、景気よくシャンペンで乾杯、大いに楽しんだ次



「傘寿記念事業」として(1)同期生の書いた書籍等を寄贈(会報第45号記載)計十一冊(2)六十余年前の「卒業アルバム」を仙台北陵会協力のもと作成寄贈する：披露した。  
 最後に今後の方針として、現行の幹事団を「事務局」として存続させ、「米寿」を目標に更に一歩進めた「新交流会」(仮称)のもとお互いの情報交換と親睦を継続する予定です。尚当日の記念として「卒業アルバム」のエッセンス版を配布。  
 互いの絆を再確認した次第です。

傘寿記念  
「卒業アルバム」作成

高4回も、八十歳を迎えました。その記念として盛大に「傘寿祝賀会」を開催すると共に記念事業の一つとして、六十余年前の「中・高卒業アルバム」を作りました。

卒業当時の社会環境は、「卒業アルバム」どころではありませんでした。然し校長はじめ先生方はクラス別の集合写真を残してくださいました。ならば、皆さんで探し出してまとめ、アルバムにしよう：が始まりました。

やれば出来る。遂に完成。同窓会に寄贈。永遠の記念とした次第です。同期の諸君には、そのエッセンスをコピーした「アルバム」を届け、しばし想いにはせった次第です。

完成に当り仙台北陵会をはじめ、ご協力を預かった各位に紙面を借りて、感謝致します。北陵四期会「万歳」幹事一同。



五三(ゴミ)の会

市橋 功 (高5回)

芳賀欣哉君から知らせが入り菅原俊成(とししげ)君の訃報です。多臓器ガン転移だった由それで法嗣(嫡男「長男」)さんと奥様にお悔みを申しましたら、「五三の会」からの「弔辞」を依頼されました。菊地司君等がリードしてくれました五年間(春、秋一〇回)開催の、その前の世話役、幹事団は、不肖私が一応長で、二高時代陸上競技部の仲間だった諸君に頼みまして固めました。根白石の嶺岸功君(故人)佐藤元康、斉養造、山崎洋資(故人)の部員諸君に更に小金澤紀光君、芳賀欣哉君、高橋靖英君等の面々でした。法嗣さんのお話では、今回は四人の方々から弔辞があるそうです。四年程前に嶺岸君の葬儀の折も、同家から依頼があり、それこそ徹夜で構想し、開式の一分前にお寺に到着。という際どいことでした。

今回は本山との関係もあるので、頼から半月以上ありますので、切羽詰まることはありませんでした。不束ながらこんな拙文をまとめました。彼とは陸上部の「長距離仲間」というより接点あったことではありましたが、運動会の折「生瀬橋」往復一〇kmのロードレースで俺が一番、彼や小金澤、芳賀

の諸君が二、三番だったか？という個人的な思い出はありそれなりに「真剣に」レースしたことなど、これも「二高スピリット」と思うことだが、それよりは同校卒業生となつてのわが「五三の会」になってからのことが、時間的にも近く「鮮明な印象」なので幹事団仲間としての一断片、断面、一断章として私なりに彼を捉えての、ありし日のありし姿を偲びました。

最近、私の参列したご葬儀は、家族葬が多く、会社関係、地域関係、友人関係の弔辞が少なく、お孫さんがおじいちゃんの思い出を語る。といったコンパクトな葬儀がよくあります。やっぱり友人代表のそれは、ありがたいものと思えます。吾等も遅かれ早かれネクストがある訳で、そして来年は傘寿の満八〇歳に「適齢期」に到達することです。

菅原俊成君の  
逝去を悼んで

昭和二十八年三月、「仙台二高」を卒業した俺たち。その同期生会「五三の会」を代表して、会員・菅原俊成君の御霊に弔辞を呈します。

この年明け早々、わが仲間の芳賀欣哉君から電話があり。聞けば

君が暮に亡くなったー、という連絡を受け、「エ？何・本当か？」と絶句してしまった。ガンを患っていたそうだが、全く知らなかった。

君とは、去年一年間は会っていなかったが、それまでは、わが「五三の会」でよく会っておったし、過ぐる七・八年以前は、ともにわが「五三の会」の常任幹事同志として、同期会の世話役を務めてきた仲間うちだった。

俺たちは「仙台二高」を卒業して、この三月で丸六十年になります。当時は、戦後の復興期の日本であり、仙台でありました。貧乏暮らし・耐乏生活の世の中でした。

そんな当時の二高校長は山下忠先生でした。国語漢文の教師でしたが、全校集会の度に、「君たちが被っている制帽のあの旭日の校章は「正義」を示すものであり、二本の白線は「自治」と「友愛」を示すものである」と諭して下さった。わかったようなわからないような校訓の訓示だった。しかし、俺は今でも覚えてる。二高はそんな「校風」だった。勉強の出来に差はあるが、それはともあれ、各人「刻苦勉励」とか「切磋琢磨」なんていう漢語・熟語を覚えて、自己実現に向けて精進したーと言える三年間だった。押しなべて、いい学友であり、いい高校時代だった。わが青年期の得難い

「学園生活」だった。

二高卒業後の君は、やがて仙台市役所の職員になり、俺は高校教員になった。君の最終の勤務部署は宮城総合支所だった。一度所員で訪ねたことがあったが、君はセクシヨンのキャップとして万般に精通し、そして目配りところ配りな一日神経を使う役柄であったと思う。夕方帰宅してからは、家業である僧職があり、御勤めと勤行は欠かさずの日課であったろうし、他には何時なんどき御葬儀のご依頼、また法事・仏事の依頼もあることで、このことにはそれこそ徹して、身罷った御仏のため、そのご遺族のため、精魂を込めて諷りことばを草する、そのような厳肅な荘嚴な聖職に就いておられたことだ。

それで思うに、昼も夜も職業柄、絶えず使命感と緊張感があった筈と思う。俺たち世俗の人間とは違い、きっと「ストレス」を抱えての日常であったと思う。

そんな時の、偶々(たま)同期会の会合では、君には総会の「議長」をやったこと、君にはそれが「最適役」だった。予定通りに、総会の議事運営もスムーズに、しまりのある形で短時間に終了した。

そして、宴会・懇親会の席に移ってからは、君はやはり日頃の張り詰めた神経の安まる、気のおけない飲み会であるので、いかにも解放感に浸っている様子だった。余り喋る方じゃない。誰かに声をかけられると、受けて頷く、というスタイルの仁だった。動き廻って盃を汲み交わし、リップサーピスをするというタイプではなく、和尚さんらしく、「受けて聞く」というステータス・ステートであった。

飲み物はビール党ではなく、明らかに「般若湯派」であった。あの大きな軀かた。ちょっとばかり斜に構えて、何となく「仏教っぽい」そう、いささか「説論調」の話になるのだった。そのひと癖がいかに君らしい人徳であり、今となっては遺徳だなあ、といましみじみ思うことだ。俊成和尚らしい為人ひとなまでありキャラクターでありパーソナリティーであった。

やっぱり「餅屋は餅屋」、和尚さんは和尚さんなんだなあ、と。その道のプロフェショナルであったことに、今、改めて敬愛する思いだ。兎に角「五三の会」の酒は、いつも旨かった。「五三の会」は、本当に楽しかった。

同期会の懇親会が跳ねて帰宅する時、君は自宅へケータイで電話を入れ、陸前落合駅まで車で迎に来てくれるよう連絡をしていた

が、「…いやあ、うちの嫁さんにとってはいい女なんだあ」と褒め自慢し喜んで聞いているのを聞いたが、私もそれを本当に嬉しく称え祝福したことだった。徳源寺さんの、菅原家の寺務・家事・日常を家族全員で守っている様子を垣間見る思いだった。

君は享年七十九歳というから、実年は昭和九年生まれで七十八歳の筈だ。日本人男性の平均寿命は七九・二一歳なのだから、少し早過ぎだ。和尚さんは、やはり古い人、「後期高齢者域」でキャリアのある僧の方が好ましい。重厚感が出、威厳と風格が増してくる。この先、間もなく八十歳台ということ、今後とも度度の出番であってほしかったことだ。愈々円熟期・人生の佳境に入るところであった。惜しみて余りあり。

何え、嫡男さんもスタンバイもう出来ている由で徳源寺さんのご安泰・弥栄を祈念申し上げる。

本日、仙台二高「五三の会」から大勢の仲間が来ております。「生者必滅」「会者定離」と。みんな同年・同期生なんだが、君はひと足早く「蓮華の道」への先輩格となった。俺も行(逝)く、俺たちみんな、遠からぬうちに行く。これ「必定」だ。その節は、君宜敷く頼む。

仙台二高を縁よことしてのわれわれ

### 高18期(一八会) 同期会近況報告

富沢 信重 (高18回)

平成二十四年十二月一日付の同窓会報にも18期同期会総会の顛末記が、K君の投稿で掲載されましたが、またまた一八会の現況を同期の皆さんのお許しを得て報告したいと思います。

高18回卒業の仲間は、懲りもせず偶数月の十八日の十八時から二ヶ月に一回のペースで一番町にある「樽」という居酒屋に集い、飲み会を開いています。「いつ仕事やめるの?」「今でしょ!」とばかりに企業戦士にあっさりと終止符を打ったリタイア組と、まだ現役としてバリバリ活躍しているネクタイ組が毎回二十名程、三々五々集っております。

飲み会のテーマはこれと言って無く(当たり前ながら)、四年に一度代わる幹事の乾杯発声で会が始まり、同窓会からの要請要望等の報告や、体調不良で参加できない仲間の近況などの報告、久しぶりに出席した仲間の挨拶などもあり、六十五歳という後期高齢者にそろそろ手の届く連中にもかかわ

らず、暴飲暴食の二時間を和気藹々と過ごしております。

その他の集いの場としては、数年前から一八会の分科会が立ち上がり、ゴルフ好きな仲間の集まりが「エイティーンゴルフクラブ」の名でデビューしています。西仙台GCをメイン会場に、奇数月の十八日頃をめぐりに開催していて、常に三、四組の仲間が集って体力増強に努めており、E君には万年幹事として毎回ご苦勞をかけております。

また体力に自信のない方!?!の分科会として「囲碁・麻雀の会」を立ち上げており、囲碁会所や温泉一泊での脳の活性化に、ボケ防止の会合を開いています。こちらは日君が万年幹事としてご苦勞を戴いております。

我々団塊の世代に生まれ、激動の時代を駆け抜けて来て、あっという間に六十五歳になってしまいました。我々世代は良いのか悪いのか、どんな時も仲間と集いたくなるのが習性のように、高校三年の多感な時期を一緒に過ごした仲間と繋がっていたいという思いを消すことが出来ないようにも思われます。

まだまだ現役で頑張っている仲間も沢山いるわけで、同期会に参加したくとも出席できない方々がいることも事実、今後多くの方々が仕事をしながらでも、現役を引退してからでも参加していただき

### 田島信義先生をお招きしての ゲタの会定例飲み会

福田 和弘 (高22回)

先ずは我が田島信義先生についてご紹介させていただきます。Go to the Yagiyama Zoo.

でお馴染みの英語科の教諭であります。我々の世代では著名で、ユニークな先生であり、我々ゲタメンバーからは尊敬され、愛されている名物教師であります。いつもゲタの会の集まりで御招待されることを喜んで、馳せ参じて頂ける恩師でもあります。田島信義先生がお出でになると、ゲタの会は会の雰囲気が一変と明るくなり、先生がおられるだけで、とても楽しい雰囲気になります、そしてご挨拶をいただくお話は、洒落で軽妙な語り口で、常に我々ゲタメンバーに豊かな笑いをもたらせて頂けます。田島信義先生は、今回は何を話してくれるのかな、田島信義先生がお出でになる会は、我々の楽しみの一つでもあります。田島信義先生は、「まむし校長」で異名をとる当時の故小坪洋校長先生に請われて、仙台二高の英語教育の充実のために、秋田県より赴任されたとうかがっております。

ます。仙台二高の英語教師として長きにわたり、我が母校仙台二高に貢献された功績は、偉大であります。御齡満八十四歳で益々お元気でありたいと願います。

さて、本論「ゲタの会」をご紹介させて頂きます。「ゲタの会」の名前は、江戸時代の女流歌人・俳人で貞門派の女流六歌仙の一人田捨女（でんすてじょ・すてめ一六三四〜一六九八）が六歳の時に呼んだ「雪の朝 二の字 二の字の 下駄の跡」に由来します。

我々は、高校22回卒業であり、当時、下駄でまっさらな白雪の上を歩いた後の二の字二の字が二つ並んで踏みしめた様子が、二二卒の我々と共感、一致した事、パンカラの当時の二高生の象徴が下駄であった事から名付けられました。



因みに一高の同期である22期は「玲瓏会」と称します。「ツーツーレロレロ」からレイロウ会 玲瓏会と命名したようです。我々ゲタの会が、下駄ばき、詰襟の最後の世代であり、我々の次の代、23回卒から、制服が自由化されました。

我々ゲタの会の活動報告をさせて頂きます。思いおこせば、充足は、今から二十六年前、満三十六歳のうさぎ年、仙台二高同窓会総会の当番幹事になった一九八七年にさかのぼります。我々同期が、仙台二高同窓会総会懇親会の幹事を仰せ付けられ、懇親会のアトラクションに、田島信義先生の英語の模擬授業を再現したのがきっかけであります。Never put off until tomorrow what you can do today.を皆で声を合

せて読み上げ、できない生徒は、廊下に立たされるといふ当時は彷彿させる授業風景を再現しました。私は、その時になんで今更英語の授業なんだと思いました。私は在学時の英語の授業では、田島信義先生からお叱りの時、Go to the Yagiyama Zoo. ではなく、Death by Hanging (絞首刑)と、よく言われました。過日、田島信義先生にそのことを話しましたら、相当英語が出来ない生徒以外は、その言葉は発しなかったと言われました。(笑い)ゲタの会発足以来、事あるたびに、誰かが言いだしっぺで集まりを続け

て参りました。そして二十年ぐらい前からは、毎月22日を「ゲタ飲み会」と定め、同期でもう片方の福田瑞久君の御好意で、江陽グラウンドホテルの十三階、龍天江の豪華なゲストルームでゲタ飲み会を続けております。最近では定年を迎えた同期が、数多く帰仙され、在仙ゲタ飲み会は毎回二十名以上の参加となり、回を重ねるたびに増え続けて盛り上がりつつあります。

東京でも首都圏ゲタの会は、定期的に開催され、田島信義先生は、首都圏ゲタの会にも出席されていただいております。

我々ゲタの会は、仙台二高同窓会総会がまぎれもない生みの親であり、仙台二高同窓会の活性化は、同期の結束が、基本にあると固く信じております。各同期は、横の連絡を緊密にとつて、仙台二高同窓会の屋台骨になるよう、生涯の友が集うように、楽しく懇親を深めてほしいと考えます。各同期同期生の輪を広げて、仙台二高同窓会の活性化に努めて参りましょう。ゲタの会もう一人の福田こと高22回卒、福田和弘様

**クラブ・職域等**

**応援団幹部OB会**

**総会開催報告**

渡邊 晋一 (高36回)

平成二十五年五月十一日(土)、

第六十八回硬式野球定期戦終了後、第二十八回応援団幹部OB会総会が開催されました。今年はお窓会との共同開催という初の試みでした。

同窓会共同開催ということで、「定期戦祝勝会」というタイトルを用意し、場所も定期戦が行われたKスタ宮城内にあるEgata's. ZONEで準備しましたが、残念ながら雨のため、まさに雨のせいでの惜敗という結果でしたので、「定期戦準優勝祝勝会」として開催しました。

開会宣言の後、田中於菟彦応援団OB会会長の挨拶、そして大井龍司同窓会会長、渡邊幸雄校長よりご挨拶を頂き、乾杯、歓談という流れで進みました。雨の中、最後まで諦めずに戦った野球部員、二高の勝利を信じて全力で応援した生徒、そして応援団幹部の素晴らしいさを讃えると共に、昔話に花を咲かせ、大変楽しい時間を過ごすことができました。

後半は来年の母校勝利を祈念して参加者全員で応援歌を高らかに歌いました。「雨か嵐か」「勝利の歌」はもちろんのこと、「対一高戦歌」等の旗振り曲にとどまらず、手振り曲も数多く歌い、「凱歌」も熱唱しました。最後は母校に向けて「校歌」を斉唱し閉会となりました。

今回の共同開催は、OB会として二十四名、同窓会として二十八



名、合計五十二名の参加でした。来年はこの数を倍以上にしたいと思っております。応援団幹部OBの皆様、そして同窓会の皆様の更なる参加をお願い致しまして、開催報告とさせて頂きます。

**寄稿**

**『マルクス違い』**

武田 弘 (高4回)

我々高校4回卒業の仲間、一上年上の第3回卒業の先輩方同様、丁度戦争が終わったばかりの、昭和二十年(西暦一九四五年)と二十一年の学制改革が始まる前、未だ「宮城県仙台第二中学校」と云われて居た頃に入學し、そして二十一年に六、三、三制と云われる新しい学制の大改革が有って、そ

れ迄の中学校が現在の高等学校に格上げになった時だった。

その為特に我々第4回卒業生は、二十三年（一九四八年）に二十四年と続けて高校を受験して入って来る生徒が居なかった為に、二十五年四月に、高校二年生になってやっと下級生が入って来た、と云う珍しい事が有った。

又その前年昭和二十四年（一九四九年）には一般の外部の社会で、政治活動が盛んになり、特に共産党が各地で大きな活動をして、それが学内にも及んで大騒ぎが有った。

我々は新しく高校一年生になったものの、以前の中学当時からクラスメートと一緒に、特に改まった感じは無く、昼休み等には、市内の映画館で当時盛んに上映されて居たカラーのアメリカ映画の西部劇等観て来た話題が多かった。

或る時昼休みに例によって、良く一緒に映画の話をして居た仲の良い友人と、その中の喜劇映画に出て来る俳優の話をして居たら、通り掛かった理科のH先生がそれを小耳に挟み、目の色を変えて私達の所へ戻って来られ豪い剣幕で怒られた事が有る。

その先生は「今お前らは何と云った？マルクスと云っては居なかったか？」と云われ、我々が例の同じ名前のソ連の共産主義者「マルクス」の話をして居ると思

われた様だ。

我々が話して居たのは、後に日本でもテレビで、ドリフターズが真似をして居た、マルクス三兄弟の事だったが、前の年に学内でも政治活動で、校長先生の進退問題や、生徒の退学処分等、多くの問題が有ったので、先生方も神経を尖らせて居られたと思うが、今になっても時々この事を思い出す事が有る。

### レリーフ 「おおきなかぶ」物語

宮城県立こども病院名誉院長  
大井 龍司（高10回）

はじめに

東北地方は長い間、こども達のための専門総合病院、いわゆるこども病院の空白地帯でした。欧米先進国では人口二百万人には必ず一つは存在する、ましてわが国では既に二十六のこども病院がすでに全国各地にあり、病気のこどもやそのご家族たちの安心のために機能しているにもかかわらず、地方単位でそれが無いのは東北地方だけでした。私は大学在職中から、研究上でのライフワークとは別途、社会的なライフワークとしてこども病院の創設に旗振り役として奔走し、当時の宮城県知事浅野史郎氏（本校、高18回）ほか多くの関係者の賛同・支援を得てその夢が実現、二〇〇三年十一月つ

いに開院にこぎつけることができました。その間、一九八五年の居酒屋「樽」での小児病院問題懇話会の初会合以来、一九九三年の一般市民をも巻き込んだ宮城県母子総合医療センター設立推進協議会での諸活動、とりわけ一九九六年末には署名運動を展開し、わずか三ヶ月での二十万人もの署名を集め、その効果が抜群で、一九九七年には県に小児総合医療整備のあり方検討委員会が設置され、さらに同年、宮城県立こども病院の建設が決定されました。二〇〇〇年に不肖大井がその初代院長に内定し、困難な中にも夢多き開院準備作業が継続され、二〇〇三年十一月、「元氣のぞるファミリリーホスピタル」、一六〇床と小ぶりではあるものの、全国に誇れる宮城県



(写真1) 宮城県立こども病院前景



(写真2) 病院エントランスホール「まほうの広場」

立こども病院の開院を迎えることができたのです。想えば十七年間に渉る準備活動でしたが、その間、数多くの方々からの激励やご協力には改めて感謝の気持ちで一杯です。また現在、県内のみならず全国さらには海外からの患児の健康のために立派に機能している宮城県立こども病院の現状を見るにつけ感慨ひとしおの想いです。（写真1、2）

レリーフ「おおきなかぶ」とは

そのこども病院も本年で開院十周年を迎えました。その病院の玄関ホール正面を飾る畳一畳分のおおきな「レリーフおおきなかぶ」が、病院に入るすべての人たちを暖かく迎えてくれます（写真3）。このレリーフは、当時九十歳を越えてもおおきなかぶとして制作

活動を続けておられた世界的な具象彫刻家、故佐藤忠良先生（以下忠良先生）（平成二十三年三月三十日、東日本大震災の犠牲者の後を追うように同年三月逝去）が、ふるさと宮城の病氣とたたかうこども達のためにと熱い気持ちを込めて、ほぼ一年半という長期間を要して制作にあたったブロンズのレリーフです。この作品は、単にこども病院の宝物にとどまらず、宮城県さらには世界の彫刻界の至宝と評価されています。ちなみに二〇〇八年講演社から発刊された「佐藤忠良：彫刻七十年の仕事」には忠良先生の集大成の中から特に一〇〇点が選ばれおおきく取り上げられています。このレリーフがその一〇〇番目、最後のページを飾っていることからその価値の高さが伺えます。



(写真3) ブロンズレリーフ「おおきなかぶ」（こども達が触れるよう低く設置されている）

きっかけ

このような素晴らしいアート作品が宮城のこども病院に飾られることになったきっかけには、仙台二高の同窓会が関わっているのです。世界に展開する社会奉仕団体「キワニスクラブ」の支部が仙台にもあり、当時の会長、荒木武雄君は高10回、大井の同級生でした。その荒木君から「仙台クラブが創立30周年を迎えるので、その記念事業の一環として、貴君が創設のために頑張っていることも病院に芸術作品購入金を寄付したい」という大変ありがたい申し出がありました。そこで私は、クラブの皆さんの同意を得た上で、その寄付金を膨らませて世界一級のシンボリックなアートを掲げたいと考えました。

ストリート勝負

宮城のこども病院に相応しい世界一のシンボリックアート、私はとっさに、それには宮城県出身で、ある時期「小児科忠良」といわれたほど、こどもをモデルにした素晴らしい作品を制作していた忠良先生の作品しかないと考えました。このことを契機にして地元

の芸術家や建築専門家をまじえて「こども病院癒しの環境整備委員会」を設置、種々検討の結果、忠良先生の大変有名な絵本「おおきなななぶ」の二十四、二十五ページをモチーフとする作品をお願いす

ることにしました。難病のこども達を、ご家族や医師、看護師ほか病院のスタッフが力を合わせて「うんとこしょ」と治そうではないかという発想です。

日頃、忠良先生の展覧会を企画運営している日氏にお願いし、忠良先生にストリート勝負で制作依頼を行うことになりました。忘れもしない二〇〇一年八月十三日、日氏とともに大変緊張しながら杉並区永福の忠良先生のアトリエを訪ねた日のことを覚えています。先生の手になる著名な作品が所狭しと置いてある広々としたアトリエで、世界的な芸術家とは思えない気さくで暖かいお人柄の老先生と差して芸術論を戦わし、先ほどの緊張感はどこへやら、つい

ついで二時間ほどを過ぎてしまいました。作品が完成に至るまで上京の機会がある度に、少しづつ完成に近づく作品を見るのが楽しみで八度もアトリエに足を運ぶことになるうとは、しまいに先生から「こんなアトリエに足を運んでくれたのはあなただけです」と呆れられたり、褒められたりしたものでした。

先生の想いと笹戸氏の提案

忠良先生は彫刻のみならずデザインもされ、絵本や教科書も多数出版されています。絵本「おおきなななぶ」はその中の代表作で、日本では知らないこどもはいないで

しょうし、その版は一〇〇刷以上を重ね、世界数十ヶ国語に翻訳されており、先生がもっとも愛着を持っておられる絵本です。私たちの申し出が先生のこの絵本への愛着心をくすぐり、先生の創作意欲を掻き立てたのではないでしょう

暖かい理解と素晴らしい支援

それからは、極めてストレスの多い病院開設準備作業に平行して募金活動が展開されましたが、この企画のすばらしさ故でしょう、地元の財界や篤志家の皆さんがこぞって暖かい理解を示して下さい、半年の予定が三ヶ月で目標額に達することができたのです。募金に当たっては、私の二高同級会「三三三」や、私が八年間務めた東北大学応援団のOB「城萩会」の協力が絶大でしたし、企業トップの方々との対応の中からも、日頃のひととの繋がりが、お互いの信頼関係の重要性を改めて感じさ



(写真4) レリーフ粘土原型制作中の忠良先生

せられる毎日でした。なお忠良先生のレリーフ制作が、地元あるいは全国版を問わずテレビや新聞紙上で報道されたり、文芸春秋ほか各種単行本で披露されたこともお

レリーフの完成と除幕式

年齢九十歳を越えた世界的老作家が、ご自分のアトリエに本物のかぶを持ち込んだり、おおきな鏡に「うんとこしょ」と引っ張るポーズを映して見たり、まさに精魂を込め制作に打ち込んだ(写真4)粘土原型が出来上がり、石膏原型作成、液体ブロンズ鑄込み作業を経てブロンズレリーフが完成しました。

二〇〇三年七月七日、アトリエでのブロンズ像最終検収での感激は忘れることができません。忠良



(写真5) 序幕式で挨拶をされる忠良先生

先生は、ご自分の作品に十分に納得されているにもかかわらず、その驕ることのないお人柄そのものに「大井さん、こんなものでもいいですか」とおっしゃいました。私は思わず先生の手を握り「本当に有難うございました」と申しあげましたが、ころろの中では老先生をこんなに苦しめて申しわけないという気持ちで一杯でした。

病院の開院記念式を翌日に控えた二〇〇三年十月二十一日、こども病院玄関ホールは、忠良先生、笹戸氏、ご寄付代表ほか多数の来賓、一般市民、病院職員、マスコミ関係者で満ち溢れ、完成記念式典(除幕式)が行われました。先生はご挨拶の中で「こども達には良いもの、本物を見せなければなりません」と持論を披露されました。クライマックスの序幕での掛

け声は勿論「うんとこしょ、どっ  
こいしょ」です。幕が下ろされよ  
うやくその全貌を現した名大作  
「レリーフおおきなかぶ」を目の  
当たりにした参会者の皆さんが感  
嘆の声を挙げたことは言うまでも  
ありません。(写真5)

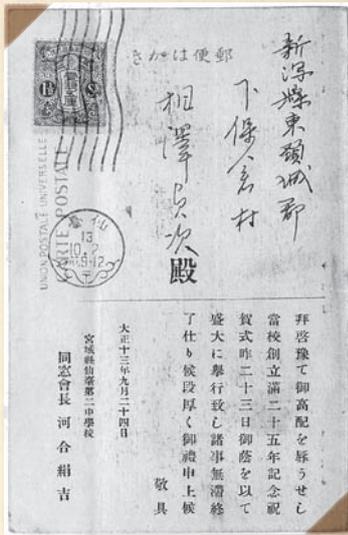
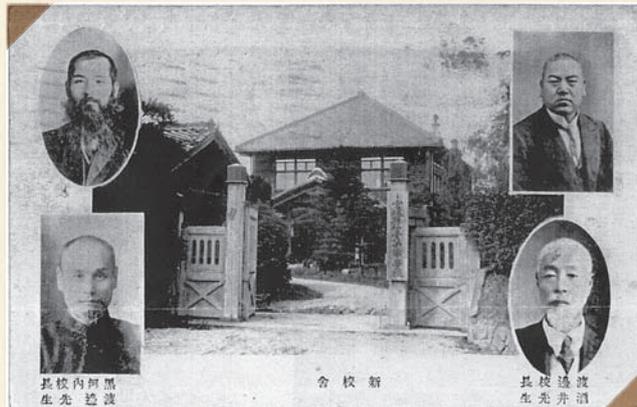
まとめ

ピカソは「芸術家にとって大切  
なのは作品ではなくて、その人が  
どのような人間であるかというこ  
と」と言っています。忠良先生は  
大変謙虚な方で、「わたしはただ  
の粘土いじり職人だから」と文化  
勲章をはじめとして全て公的な賞  
をお断りになっています。今回の  
ことで、高い芸術性と高邁な人とな  
りとを合わせ持つ小さな巨人  
「佐藤忠良」に直接接することが  
できたことは、私にとっておおき  
なこころの財産になりました。も  
ちろん「レリーフおおきなかぶ」  
がこの世に残り、宮城のことも病  
院で病気のことも達や、その他多  
くの人たちを励め励まし続けるこ  
とは素晴らしいことです。この企  
画の実現に力を貸してくださいと  
多くの方々に深く感謝しますと  
もに、仙台二高の同窓生の皆さん  
が地元の誇れることも病院を訪  
れ、是非ともこの素晴らしい芸術  
作品を鑑賞してくださいることを  
願っています。

# 卒業生思い出の品

高20回卒の井上武志です。同封しましたコピーは私  
蔵品で創立二十五周年記念同窓会の御礼状です。銅像  
の河井先生が会長です。裏の先生方は創立当時の先生  
ではないかと思えます。  
(大正十三年十月二日仙台の消印です)

はがき(裏) 当時の校舎と先生方



はがき(表)  
河合同窓会長名の礼状

## 創立記念講演会

### 『二高生の海外飛躍』へのヒント

石油資源開発(株) 鈴木 勝王(高16回)

去る五月一日(水)の創立  
一一三周年記念日には本校講堂  
にて鈴木 勝王(すずき かつ  
お)氏(本校・高16回)より『二  
高生の海外飛躍』へのヒント』  
という題でお話を頂戴いたしま  
した。氏は世界経済発展の原動  
力である石油資源開発のために  
グローバルビジネスの舞台で長  
年活躍され、現在もインドネシ  
ア共和国ジャカルタ市ご在住で  
事業に従事しておられますが、  
お忙しい中この講演会のために  
駆けつけてくださいました。  
当日の講演は、当時県下で無  
敵を誇ったバスケットボール部



の活動に明け暮れた高校時代の  
ご回想に始まりました。次に戦  
略物資石油・天然ガス開発を通  
して見てこられた世界の動き、  
そして後半は二高生が将来社会  
人として社会に貢献するため、  
そして海外に飛躍するためには  
何が必要かをわかりやすくお話  
してくださいました。あつという  
間の九十分が経過し、質疑応答  
の時間には「海外進出に伴うリ  
スク」や「鈴木氏ご自身の個性  
(鈴木氏は「スパイク」と表現)  
などに関する質問が生徒から  
次々に発せられました。  
なお、当日夕刻より市内のホ  
テルの一室にて渡辺校長先生、  
大井同窓会会長、バスケット  
ボール部OBの方々により『鈴  
木氏を囲む会』が開催され、奥  
様も交えて楽しいひとときを過  
ごした次第です。  
鈴木氏は今後も石油資源開  
発株式会社顧問、Kangean  
Energy Indonesia Ltd. 社長と  
してお忙しい毎日を送られると  
のことです。氏のままますのこ  
活躍を祈念いたします。

## 支部 OB 会連絡先

## ● 支 部

団体名称	代表者	事務局長(連絡員)	事務局連絡先	
北海道支部	若生幸一郎 (中43)	上田 俊朗 (高15)	登別市常磐町 1 丁目14-3	0143-85-2729
青森支部	生駒日出夫 (中37)	新山 龍治 (高22)	青森市緑2-15-8	017-774-1009
岩手支部	鈴木 恒男 (高 5)	橋浦礼二郎 (高23)	盛岡市西松園1-9-2	019-662-7028
福島北陵会	阿部 力哉 (高 3)	益田 芳幸 (高 3)	福島市丸子字沢目17-2	024-554-5920
東海北陵会	千葉 善根 (高 9)	佐山 泰弘 (高10)	愛知県知多郡武豊町平井6-39	0569-72-4032
関西同窓会	天江基七郎 (高14)	天江基七郎 (高14)	京都市左京区北白川東久保田町 73-4-202	075-703-3367
広島支部	奥田 幸造 (高12)	佐藤 均 (高17)	広島市西区庚牛中4-5-8-301	082-275-1269
在京同窓会	佐藤 隆輔 (高 5)	赤井澤勝己 (高23)	千葉市若葉区みつわ台 1-27-1-B-304	
亘理会	山田 芳廣 (高 9)	山田 芳廣 (高 9)	亘理郡亘理町字五日町19	0223-34-5347
角田支部	未定	湯村 周一 (高22)	角田市角田字町65	0224-63-1331
岩沼支部	四倉 政美 (高10)	四倉 政美 (高10)	岩沼市桜2丁目1-15	090-3755-6555
黒川北陵会	大友 正隆 (高16)	大友 正隆 (高16)	黒川郡大郷町羽生字原畑27-2	022-359-3222
塩釜北陵会	大平 眞悦 (高18)	中村 賢一 (高17)	塩釜市尾島町1-15	022-362-3226
石巻・桃生・牡鹿支部	菅原 憲 (高 8)	後藤 宗徳 (高29)	石巻市千石町2-10 石巻グランドホテル気付	
加美郡支部	有馬 恒彦 (高18)	大山 匡 (高23)	加美郡加美町字北町2-181-1	0229-63-3054
志津川支部	高橋 長偉 (高11)	高橋 長偉 (高11)	本吉郡南三陸町志津川十日町1	0226-46-2041
気仙沼支部	移川 二郎 (中36)	移川 二郎 (中36)	気仙沼市松崎柳沢216-5	0226-22-6685

## ● 職 域

団体名称	代表者	事務局	事務局連絡先	
仙台市役所北陵会	伊藤 行政 (高26)	砂子田 順 (高58)	〒980-8671 青葉区国分町3-7-1 仙台市総務企画局 人材育成部労務課	022-261-1111 (内)2222
宮城県庁仙台二高養賢会	吉田 祐幸 (高29)	野呂 秀樹 (高42)	〒980-8570 青葉区本町3-8-1 宮城県国際経済交流課 国際交流第二班	022-211-2277
仙教委北陵会	郡山 孝幸 (高25)	東海林惠吾 (高28)	〒982-0014 太白区大野田六反田10-5 大野田小学校	022-247-6654

団体名称	代表者	事務局	事務局連絡先
藤崎北陵会	松原 大介 (高27)	星 史雄 (高37)	〒980-8652 青葉区一番町3-2-17 (株)藤崎 人事部労務担当 022-261-5111
宮歯二高会	太郎丸 浩 (高17)	角田 哲 (高26)	つのだ歯科医院 (7月交替予定) 022-281-4182

## ● クラブ

団体名称	代表者	事務局長(連絡員)	事務局連絡先
青葉倶楽部 硬式野球部	鈴木 文夫 (高6)	岡崎 正行 (高28)	〒982-0242 仙台市太白区秋保町長袋戸崎64 022-399-2215
仙台二高 軟式野球部OB会	岩田健太郎 (高49)	岩田健太郎 (高49)	〒981-0942 仙台市青葉区貝ヶ森3-29-25 022-278-1422
仙台二高 ハンドボール部 北陵会	加藤 正彰 (高7)	菅間 進 (高21)	〒989-3203 仙台市青葉区中山吉成1-16-1 022-277-1284
仙台二高 バスケットボール部 東京北陵会	太田 一彦 (高23)	遠藤 英司 (高38)	〒165-0035 東京都中野区白鷺3-22-7-117 080-1133-3072
	サッカー部	菊田 久 (高25)	〒963-0006 仙台市宮城野区白鳥2-26-24 022-258-2287
仙台二高ラグビー部 OB会	ラグビー部 本吉 和康 (高11)	桂島 猛 (高34)	〒981-3332 富谷町明石台5-41-1 022-776-1364
北陵騎士の会	フェンシング部 小栗 康次 (高13)	秋保 茂樹 (高32)	〒021-0866 岩手県一関市南新町55 0191-32-5105
	ヨット部	奥野 誠也 (高22)	〒981-1304 志田郡松山町千石本丸49桃源院
仙台二高スキー部 北陵会	スキー部 前田 弘毅 (高28)	斎藤 雅人 (高34)	〒981-0953 仙台市青葉区西勝山7-2 022-719-3282
仙台二高陸友会	陸上競技部 宮崎 幹男 (高12)	加瀬 延男 (高16)	022-287-3901
仙台二高北陵柔道会	柔道部 佐々木優登 (高16)	鈴木 裕 (高27)	〒984-0836 青葉区新坂町3-19 022-271-3682
仙台二高剣道部 OB会	剣道部 菅野 敦 (高41)	堀之内優樹 (高44)	〒989-0225 白石市東町2-5-28-102 0224-25-0024
仙台二高弓道部 OB会	弓道部 中村 光雄 (中42)	山口 哲男 (高20)	〒980-0804 仙台市青葉区大町2-15-40 022-223-1618
仙台二高OB山の会	山岳部 三浦 康宏 (高31)	三浦 康宏 (高31)	〒981-3362 富谷町日吉台1-3-2 022-358-9452
仙台二高 バドミントン部OB会	バドミントン部 未定	宍戸 義一 (高22)	〒981-0952 仙台市青葉区中山7-14-8 022-278-4448
仙台二高応援団 幹部OB会	応援団 田中於菟彦 (高15)	田中於菟彦 (高15)	〒986-0912 仙台市青葉区天守台 青葉城本丸会館 022-222-0218
二吹会	吹奏楽部 (ブラスバンド部) 龍田 正隆 (高11)	但木 均 (高22)	〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-1201 022-717-3507
	演劇部 西條 昭将 (高15)	西條 昭将 (高15)	〒191-0053 東京都日野市豊田2-3-12 042-583-4997

※他の運動部、文化部の情報をお寄せください。

【連絡先】 仙台二高同窓会活性化担当副会長 鈴木 誠一  
Eメール s@suzuya-k.co.jp

# 評議員会 報告

平成二十四年度第二回評議員会  
平成二十四年十二月十五日(土)  
十一時～

◇会長挨拶 大井会長

◇議長選出 内藤清秀氏(21回)

◇協議 次期理事の選考

会長より現理事の任期は  
二十五年夏の総会時までである  
が、会長も就任一年足らずなの  
で理事全員の留任をお願いした  
いと提案し、承認された。

また、欠員一名の補充につい  
ては、理事会で候補者を選ん  
だ次回評議員会で決定すること  
になった。

◇連絡・報告

・会費納入状況中間報告

十二月十二日現在八二八万円余  
鈴木得史会計理事



・創立百十周年記念校内環境整備  
事業報告 山田理事  
平成二十四年度第三回評議員会  
平成二十五年二月九日(土)  
十時～

◇会長挨拶 大井会長

◇議長団選出

岡崎正行氏(高28回)

◇協議

議案 会則第八条第五項の改正

現行の評議員が各回期一名で  
あるものを二名とし、議決権は  
各回期一とする。

その理由は、一名の評議員で  
は物理的、精神的負担が大き  
く、その負担軽減を図ると共に  
若い回期の出席を促し、評議員  
会の審議の充実、活性化を図る  
もの。

熱心な議論がなされ、最終的に  
三分の二以上の多数で議決され  
た。

◇連絡・報告

・五月十一日

一・二高野球定期戦祝勝会

・五月十九日

一・二高同窓会ゴルフ対抗戦

・同窓会費納入状況報告

十二月現在九二〇万円余 鈴木  
得史会計理事

・同窓会メーリングリストへの参  
加、活用 鈴木誠副会長

平成二十五年第一回評議員会  
平成二十五年五月二十五日(土)  
十時～

◇会長挨拶 大井会長

◇議長選出

太田康裕氏(高31回)

◇協議

第一号議案

二十四年度事業報告(承認)

第二号議案

二十四年度収支決算報告・監査  
報告(承認)

第三号議案

二十五年度事業計画案(承認)

第四号議案

二十五年度収支予算案(支出  
の項目のうち切手葉書送料に  
ついて、百十五万円計上して  
いるが、そのうち百万円は会費  
納入の督促に要する切手葉書代  
というものであれば性格上予備  
費として計上すべきとの指摘が  
あり、そのように修正すること  
に。また、未払金についても、  
この欄に記載すべきでなく所要  
の修正をすることに。二点の修  
正を前提に承認)

第五号議案

会則第四条(会員資格)の改正  
会員資格が不明確なので、現実  
の運用に合わせてその定義を明  
文化する(承認)

第六号議案

理事選出案 現理事九名の留  
任と新たに菅谷俊貴氏(高54  
回)選出(承認)なお、高橋敦  
理事は秋田市に転勤のため今期  
で退任。

◇連絡・報告

・校内環境整備事業の総括

山田理事(高22回)

・同窓会総会特別講演・懇親会の  
ご案内 沼倉和彦氏(高24回)

◇閉会挨拶 鈴木誠一副会長

# 理事会等 記録

平成二十四年十一月十四日(水)

・次期理事の選考

・来年度以降の評議員選出

・来年度総会時の講演

・P同窓の準備状況

・東海北陵会出席報告

平成二十四年十二月十二日(水)

・第二回評議員会の準備

・評議員選出の在り方

・会報送付に係る意向調査四七九  
人から不要の回答

・市教委北陵会、塩釜北陵会出席  
報告

・環境整備委員会報告

平成二十五年一月九日(水)

・第二回評議員会の総括

・第三回評議員会の議題、日程調整

・評議員二名制に伴う会則改正

・P同窓の準備状況

平成二十五年二月十四日(水)

・第三回評議員会の総括

・P同窓の総括

・定期戦祝勝会

・支出手続きの整備

・岩手北陵会出席報告

平成二十五年三月十三日(水)

・新年度からの会報のあり方



- ・同窓会入会式、卒業式の報告
- ・関西北陵会の出席報告
- 平成二十五年四月十七日(水)
- ・理事の補充
- ・新年度の会務分担
- ・全国大会出場激励金の申請書様式
- ・定期戦祝勝会
- ・支出伺いの様式
- ・評議員会の日程、議案
- 平成二十五年五月十五日(水)
- ・第一回評議員会の準備
- ・会報編集の進捗状況・今後の進め方
- ・ニューヨーク支部の開設
- ・総会での特別講演者

# イベント 報告

●PTA・同窓会合同新年懇親会  
報告  
年頭恒例のPTA・同窓会合同

新年懇親会が平成二十五年一月二十五日（金）、江陽グランドホテルで開かれました。

今年は、当番回期中の中核となった高24回の皆様の尽力で、懇親会に先立ち、同回期のサッポロホールディングス（株）代表取締役社長兼グループCEO上條努氏を講師に迎え、「サッポロビールの昨日・今日・明日」と題する講演が行われました。

上條氏はサンフランシスコ支店長時代にSAPPROを米国における日本産ビールのトップブランドに育てるなど海外経験も豊富な方であり、また、サッポログループのトップとして積極的な海外展開を推進されている立場から、日本の教育には、ガラパゴス携帯などと揶揄されないように、もっともっと外に出る教育を望むとされ、二高生にも外国を見たいうえで、日本の良さを再認識して欲しいと話されました。

講演後の懇親会冒頭、渡邊幸雄校長、下山誠PTA会長、大井龍司同窓会長が挨拶しました。渡邊校長は「今年七月にボストン、ニューヨークに海外研修に行く予定で、同窓会のメーリングリストで案内したら、早速アメリカ在住の同窓生が当日激励に来てくれることになった」と笑顔で報告してくれました。下山PTA会長は「同窓会には、教室の机・椅子の新調やグラウンドの整備を進めてもらい

感謝しています」と御礼を述べていました。

大井会長は「一年前と違い今年には皆さんに素直に『おめでとう』と言えます。また、講演してくださった高24回の上條さん、ありがとうございました」とあいさつしました。

乾杯に続く懇親は、多数参加した24回生はじめ百人を超す出席者の熱気の下で進み、じゃんけんによるプレゼント企画は大いに盛り上がり、出席者は場内のあちこちで杯を手に親交を深めていました。

諸準備に奔走された沼倉和彦さん、今野克二さん初め高24回生の皆さん、高36、37、48、49回生の皆さんに感謝申し上げます。

理事会



## 平成25年度 同窓会総会のご案内

1. 日 時：平成25年7月6日（土） 総 会17時（受付開始は16時30分）  
特別講演17時30分  
懇 親 会18時30分
2. 場 所：江陽グランドホテル<<地下鉄広瀬通下車 西1番出口徒歩0分>>  
TEL：022-267-5111
3. 懇親会費：6,000円（学生の方は2,000円）
4. 申込締切：6月28日（金）  
★懇親会費は当日、会場でお支払い下さい。  
★出席申込は、下記の申込先へFAX又は電話でお願いします。
5. 申 込 先：〒980-8631 仙台市青葉区川内澁橋通1  
仙台二高同窓会事務局 TEL 022-221-5651 FAX022-221-5686
6. 当番回期：高24、36、37、48、49回  
上記回期の方々は評議員、常任委員を中心にご協力をお願いします。
7. 関連企画
  - ・特別講演  
講師 仙台銀行(株)常務取締役 鈴木 隆氏（高24回）「最近の金融情勢について」
  - ・母校案内ツアー（当日総会前実施：二高正面玄関前15時集合）

**同期の方、クラブの方、お誘い合わせの上、多数ご参加ください。**

一高・二高同窓会

ゴルフ対抗戦開催

団体戦は二高同窓会の勝利!!

一・二高野球定期戦の翌週の五月十九日(日)に仙台カントリー倶楽部名取コースにおいて、両校同窓会主催の「平成二十五年度一高・二高同窓会ゴルフ対抗戦」が開催され、一高五十九名、二高五十七名の百十六名が参加し、五月晴れのもと熱戦が繰り広げられ、両同窓会の交流が深められました。

団体戦は、各校上位十名のゲロス合計で競われ、二高820・一高837で二高同窓会が勝利しました。個人戦は、新ダブルペリア方式で争われ、愛知治郎氏(一高40回)が優勝。また、中島 均氏(二高24回)が見事ホールインワンを達成されました。表彰式で大井会長は「今後この対抗戦の回を重ねていくと共にいろいろな面で両同窓会の交流を深めていきたい」と挨拶。

なお、今回は二高同窓会が当番幹



浅見紀夫氏(一高15回) 仙台一高同窓会長から団体戦優勝カップを授与される原田伸正全北陵ゴルフ会々長(二高5回)

同窓生からの寄贈本のご紹介

- 作用素環の構造 竹崎 正道様(高4回)
- 『真向法』 『決定版真向法』 佐藤 良彦様(高4回)
- ホルモン・マジック 出村 博様(高4回)
- 政軍関係研究 三宅 正樹様(高4回)
- 地球温暖化がわかる本 吉田 博之様(高4回)
- 『氷とプリズム』 『鬼火を封じた埴輪』 飯野 敏様(高4回)
- 『画集やまびこ』 山岸 俊一様(高4回)
- 『新しい歴史教科書』 『教育の歴史』 『要説教育制度』 『日本の近代化と人間形成』 『勉強』 『時代の幕開け』 『ゆとりを奪ったゆとり教育』 牛田 敏様(高4回)
- 『詩集神々の息吹』 飯野 敏様(高4回)
- 漱石全集全18巻(岩波書店1965-1976)
- ごしゃがれっと 庄司 久夫様(高18回)
- 正宗の夢常長の現 尾高 惇彦様(中45回)
- 七十歳のLove song 濱田 直嗣様(高11回)
- 『世界35ヶ国・花模様』 齋藤 秀昭様(高10回)
- 『がん難民を救う「免疫細胞BAK療」』 海老名卓三郎様(高11回)
- 冤罪と闘った44年 荒川 晶彦様(高9回)
- 写真集 塩竈 東日本大震災の記録 三浦 一泰様(高21回)
- 日本大地図(平凡社) 古賀 規彦様(中45回)
- 奥の細道踏破隊紀行
- 東日本大震災の記録
- 『我ら歴史の生き証人』 その時私は… 仙台二高ピンピン会様(高11回)
- 庄延技術変遷史 渡邊 三郎様(高4回)

PTA・同窓会  
合同新年懇親会  
のご案内

平成二十六年一月二十四日(金)に、恒例のPTA・同窓会合同新年懇親会を開催します。

会場は、例年どおり、ホテル江陽で調整中です。

詳細は、決まり次第ホームページ等でご案内する予定です。

今から日程を空けておいていただけると幸いです。





近年、会費納入が増えず、同窓会活動は苦しい台所事情が続いています。二十、二十一年度と会費納入者が三千人を大きく割り込み、二十二、二十三年度、冬号に納入呼びかけの記事を掲載し、払込用紙を同封したところ三千人前後に回復しましたが、さらなる増収が必要です。

会報を読まれた皆さんが一人でも多く会費を納めていただけるよう望みます。納入は、会報に同封した払込用紙で郵便局からでもできますし、銀行口座もご利用いただけます。銀行口座に納める際は、振込手数料を差し引いた額を振り込んでください。また、振込用紙には、お名前のほか、卒業同期（または卒業年）をご記入ください。

振込口座は次の通りです。

◇七十七銀行 芭蕉の辻支店  
普通口座  
口座番号 ○〇九七八四五  
宮城県仙台第二高等学校  
同窓会  
会長 大井 龍司

平成24年度 同窓会費納入状況

回期	会報 発送数	口数	入金額
中 28	7	1	3,000
29	6	1	3,000
30	4	1	3,000
31	5	0	—
32	5	2	6,000
33	9	0	—
34	12	2	6,000
35	12	4	12,000
36	11	1	3,000
37	19	4	12,000
38	19	1	3,000
39	22	7	24,000
40	38	11	33,000
41	36	10	30,000
42	42	24	72,000
43	46	19	57,000
44	67	26	78,000
45	72	28	84,000
46	78	27	81,000
47	95	28	84,000
高 1	91	26	78,000
2	130	45	135,000
3	149	70	210,000
4	175	88	264,000
5	162	66	198,000
6	191	84	252,000
7	154	55	168,000
8	192	63	189,000
9	194	83	252,000

回期	会報 発送数	口数	入金額
10	220	103	309,000
11	233	121	363,000
12	233	92	276,000
13	200	73	220,000
14	224	94	282,000
15	220	74	222,000
16	222	73	219,000
17	229	76	228,000
18	215	73	219,000
19	191	67	201,000
20	182	56	168,000
21	252	86	258,000
22	282	84	252,000
23	188	57	174,000
24	197	48	144,000
25	205	59	177,000
26	211	51	153,000
27	217	33	99,000
28	197	54	162,000
29	189	25	75,000
30	197	46	138,000
31	186	30	90,000
32	227	36	108,000
33	210	39	117,000
34	195	26	81,000
35	208	29	93,000
36	211	31	93,000
37	204	17	57,000
38	196	24	72,000

回期	会報 発送数	口数	入金額
39	197	30	90,000
40	214	32	96,000
41	212	22	66,000
42	234	14	42,000
43	204	18	57,000
44	202	16	48,000
45	239	17	51,000
46	218	27	81,000
47	242	22	66,000
48	232	15	48,000
49	236	22	66,000
50	213	20	60,000
51	209	15	45,000
52	205	14	42,000
53	221	14	42,000
54	230	11	33,000
55	227	19	57,000
56	237	22	66,000
57	252	17	51,000
58	268	26	78,000
59	279	24	72,000
60	279	37	111,000
61	280	37	111,000
62	282	37	111,000
63	299	51	153,000
64	303	95	285,000
合計			9,418,000

### 校内環境整備基金の結果報告

#### 仙台二高 校内環境整備基金 収入内訳

	年 度	整備基金入金額	振込手数料	整備基金残高
1	平成 22 年度	10,356,000	51,500	10,304,500
2	平成 23 年度	5,972,760	56,940	5,915,820
3	平成 24 年度	5,299,000	64,310	5,234,690
4	平成 25 年度 (5 月 7 日現在)	68,000	890	67,110
		21,695,760	173,640	21,522,120

#### 仙台二高 校内環境整備基金からの支出内訳

【平成25年 5 月 7 日現在】

(単位:円)

	内 容	支払先	支払日	金 額	振込手数料	計
1	生徒用机椅子320セット(3年生)	(株)ミヤックス	H23.3.31	2,720,000	840	2,720,840
2	合同講義室 テーブル及び椅子	(株)ミヤックス	H23.3.31	2,390,850	840	2,391,690
3	机椅子 廃棄物処理	仙台清掃公社	H23.3.31	278,775	840	279,615
4	校内環境整備基金趣意書印刷費	創文印刷出版(株)	H23.3.31	190,409	840	191,249
5	110周年記念石碑建立工事	(株)ガーデン二賀地	H23.9.12	1,732,500	840	1,733,340
6	生徒用机椅子120セット(2年生)	(株)ミヤックス	H23.10.13	1,045,800	840	1,046,640
7	スチール教卓(8台)	(株)ミヤックス	H23.10.13	199,920	840	200,760
8	既存井戸水中ポンプ交換工事	東北ポーリング(株)	H23.10.13	1,029,000	840	1,029,840
9	110周年記念 校庭整備工事	寛永建設興業(株)	H24.3.29	2,205,000	840	2,205,840
10	校庭整備工事 その他付帯工事	寛永建設興業(株)	H24.3.29	325,500		325,500
11	3・11地震被害補修工事	高橋建装	H24.3.29	576,975	525	577,500
12	生徒用机椅子325セット(1年生)	(株)ミヤックス	H24.5.1	2,832,375	840	2,833,215
13	折りたたみチェア(400脚)	(株)ミヤックス	H24.5.1	2,730,000	840	2,730,840
				18,257,104	9,765	18,266,869

残高 3,255,251

中 規 岡 上 伊 福 福 田 阿 津 穴 佐 桂 内 猪 脇 山 山 矢 堀 藤 田 神 上 富 佐 移 高 鹿 松 瀬 深 中  
 川 田 田 林 藤 村 田 中 曾 田 戸 木 海 股 山 川 嶋 田 所 谷 野 田 田 中 藤 川 高 松 鹿 木 松 瀬 深 中  
 文 正 敏 博 芳 義 敏 和 嗣 重 清 清 一 清 民 一 貞 淑 幸 一 俊 二 孝 彰 秀 一 正 雄  
 徳 明 昶 彦 志 雄 正 博 之 夫 夫 郎 郎 碩 蔵 一 夫 郎 満 夫 郎 弘 彌 郎 雄 郎 孝 彰 登 一 雄

佐 今 小 加 勝 小 磯 石 阿 山 三 笛 西 長 高 蘇 齋 小 木 菊 萱 加 井 山 口 村 水 樋 高 神 鹿 木 牧 堀 南  
 々 野 久 賀 美 又 野 野 川 部 田 浦 三 澤 沢 沢 武 藤 泉 村 地 萱 場 藤 ケ 田 山 口 村 井 水 谷 樋 口 高 橋 神 波 鹿 江 木 村 木 戸 牧 堀 南  
 木 昭 希 規 茂 義 淳 次 正 山 田 三 浦 浦 澤 沢 武 藤 泉 村 地 萱 場 藤 ケ 田 山 口 村 井 水 谷 樋 口 高 橋 神 波 鹿 江 木 村 木 戸 牧 堀 南  
 章 義 雄 彦 利 信 雄 亭 郎 宏 正 彦 雄 郎 一 夫 博 棋 郎 樹 外 幹 郎 夫 治 郎 一 敏 道 郎 篤 美 恭 泰 生 三 郎 正 雄 久

掲載漏れなどがありましたら、ご容赦ください。ぜひ、お知らせください。

**寄付者名簿**

敬称略





一般会計 平成24年度収支決算報告

(平成24年 4 月 1 日～平成25年 3 月31日)

(単位：円)

区 分	項 目	予 算 額 (A)	実 績 額 (B)	(B) - (A)	25 年度予算案
収 入	前年度繰越金	1,270,950	1,270,950	0	2,428,390
	年会費 (人 数)	9,000,000 (3,000 人)	9,571,000 (3,190 人)	571,000 (190 人)	9,000,000 (3,000 人)
	入会金 (人 数)	1,152,000 (320 人)	1,155,600 (321 人)	3,600 (1 人)	1,152,000 (320 人)
	受取利息	1,000	285	- 715	1,000
	寄付	0	0	0	0
	名簿等売上金	0	76,000	76,000	0
	その他収入	220,000	631,700	411,700	200,000
	特別会計受入金	0	0	0	0
	合計 (C)	11,643,950	12,705,535	1,061,585	12,781,390
	支 出	総会等案内発送費 ( 発送通数 )	2,300,000 (16,000 通)	2,531,550 (16,663 通)	231,550 (663 通)
秋季会報発送費 ( 発送通数 )		2,800,000 (16,000 通)	3,238,696 (16,315 通)	438,696 (315 通)	0
校内活動助成費		1,100,000	1,040,000	- 60,000	1,300,000
卒業記念品		500,000	515,000	15,000	550,000
総会旅費補助		250,000	81,810	- 168,190	250,000
総会補填 (総会出席者数)		450,000 (100 人)	277,920 (129 人)	- 172,080 (29 人)	450,000
P 同懇補填 ( 出席者数 )		200,000 (100 人)	91,851 (127 人)	- 108,149 (27 人)	200,000
地区総会等旅費		350,000	368,447	18,447	500,000
地区総会等祝儀		150,000	149,000	- 1,000	200,000
会議費		150,000	133,982	- 16,018	150,000
慶弔費		200,000	163,265	- 36,735	200,000
人件費		720,000	711,397	- 8,603	720,000
事務消耗品費		100,000	55,028	- 44,972	100,000
切手葉書送料		150,000	65,970	- 84,030	150,000
電話料		300,000	301,574	1,574	350,000
振込手数料		400,000	355,793	- 44,207	400,000
設備費		200,000	153,300	- 46,700	500,000
雑費		80,000	42,562	- 37,438	150,000
旅費		100,000	0	- 100,000	100,000
教育問題研究費		200,000	0	- 200,000	200,000
同窓会活性化対策費		0	0	0	200,000
特別会計繰入		0	0	0	0
予備費		943,950	0	- 943,950	2,111,390
合計 (D)		11,643,950	10,277,145	- 1,366,805	12,781,390
繰越金 (C) - (D)		0	2,428,390		
残 高 H25.3.31		現金(事務局)		50,000	
	現金(事務所)		253,618		
	普通預金(七十七)		216,892		
	郵便振込(泉南中山)		1,907,880		
	郵便貯金(大町)		0		
	仮払金		0		
	未払金		0		
	総会勘定 差引合計		2,428,390		

特別会計 平成24年度収支決算報告

(平成24年 4 月 1 日～平成25年 3 月31日)

(単位：円)

区 分	項 目	収支決算額
収 入	前年度繰越金	13,390,046
	預金利息	3,197
	合 計	13,393,243
	合 計	0
次期繰越金		13,393,243
預金等残高 (H 25. 3 月末)	定期預金(七十七銀行)	13,200,000
	普通預金(七十七銀行)	193,243
	合 計	13,393,243

# 卒業式・同窓会入会式に参加して

## 活性化担当副会長 鈴木 誠一（高22回）

平成二十五年三月一日（金）第六十五回仙台二高卒業式が挙行されました。

男女共学から五年目、三回目の女子卒業生を出す卒業生三二一名（うち女子一〇〇名）の第六十五回仙台二高卒業式に副会長の一人として参列させていただきました。渡辺幸雄校長から卒業証書授与の後、大井龍司同窓会会長から温かみのある格調高いご祝辞がございました。大変厳粛な中にもユーモアあふれる卒業式で、最後の応援歌「雨か嵐か」斉唱の後の応援団長からの「おまえら」と卒業生に問いかけるシーンには、思わず目がしらが熱くなり、ジーンと心に迫るものがありました。



卒業式



同窓会入会式



卒業式前日の二月二十八日（木）に、卒業式に先だって仙台二高同窓会入会式が開催されました。来年から全ての評議員に、同窓会

入会式のご案内しますので、できるだけ多く評議員諸兄に、同窓会入会式の模様をご覧いただきたくお願いいたします。なお同窓会入会式への評議員の参列については、学校（校長）の了承を得ております。同窓会入会式終了後、校長室で六十五回の評議員、常任委員の皆様と一緒に写真に収まりました。

仙台二高六十五回生の皆様、ご卒業誠にありがとうございます。

### 平成二十五年度

### 入学式行われる

平成二十五年四月八日（月）仙台二高体育館において、仙台二高入学式が挙行されました。いろいろな入学を迎えて、渡辺校長と大井同窓会会長から格調高い御挨拶がございました。

ご入学おめでとうございます。



入学式

## 定期戦

平成二十五年五月十一日（土）に、クリネックススタジアム宮城を会場に、二高・一高硬式野球定期戦が開催されました。

小雨交じりのあいにくの空模様の中、試合は二高が序盤に四点を挙げる幸先良い滑り出しでしたが、すぐに逆転を許す苦しい展開となりました。一時は同点に迫いつき、中盤までは緊迫したゲームとなりましたが、雨が強くなってきた終盤にかけて大きく突き放され、大差のまま終盤を迎えてしまいました。二十対九で七回を終了し、再反撃に出ようとした矢先に雨が強くなり、降雨コールでの敗戦となっていました。

来年の雪辱に期待したいものです。

また、定期戦終了後には、同窓会と応援団幹部OB会との共同開催で、Kスタ宮城内のイーグルス・ネストを会場に、「定期戦準備勝祝勝会」を開催しました。同窓会活性化の一環として初めて行った行事で、当初予定していた「祝勝会」が

### 3部定期戦結果速報

去る5月18日（土）に、3部定期戦の熱い戦いが行われました。

バレーボールが昨年に引き続き勝利しましたが、柔道とバスケットボールは惜敗しました。

#### 試合結果

バレーボール	二高 3 - 2	一高	<勝ち>
柔道	二高 1高2人残	一高	<負け>
バスケットボール	二高 64 - 79	一高	<負け>

「準優勝」祝勝会に急遽変更となるハブニングもありましたが、五十二名もの一般同窓生と応援団幹部OBが集いました。詳しくは、応援団OB会の近況報告に譲りますが、応援団幹事の渡辺・中島両氏による名調子の司会もすばらしく、多くの参加者から来年以降も開催して欲しいとの話がありました。来年は、定期戦の勝利と、祝勝会の恒例行事としての開催を祈念してやみませ（理事会）



過去 3 年間の大学入試合格状況

( ) 内は現役内数

年度別	25年 3 月	24年 3 月	23年 3 月	
大学	合格者数	合格者数	合格者数	
国立大学	238 (131)	218 (137)	221 (129)	
公立大学	11 (5)	20 (11)	16 (10)	
私立大学	371 (124)	435 (90)	397 (131)	
大学校・専修・その他の学校	3 (2)	1	3 (1)	
総計	623 (262)	674 (238)	637 (271)	
北海道大	10 (5)	8 (5)	8 (5)	
弘前大	4 (2)	4 (1)	4 (2)	
岩手大	2	7 (6)	3 (1)	
東北大	文	8 (8)	6 (4)	7 (4)
	法	5 (3)	8 (7)	5 (2)
	経済	12 (7)	16 (10)	6 (1)
	教育	7 (4)	6 (6)	9 (4)
	理	10 (8)	6 (6)	4 (4)
	工	31 (23)	35 (27)	36 (21)
	医	15 (6)	17 (7)	12 (4)
	保	6 (1)	5 (3)	1 (1)
	歯	11 (5)	3 (2)	4 (2)
	薬	7 (4)	1 (1)	1 (1)
農	4 (3)	3 (2)	4 (4)	
東北大小計	116 (72)	106 (75)	89 (48)	
宮城教育大	7 (5)	5 (5)	10 (10)	
秋田大	3 (2)	5 (2)	3 (2)	
山形大	23 (9)	24 (13)	24 (15)	
福島大	3 (2)	2 (1)	2 (1)	
茨城大	1	1	5 (1)	
筑波大	6 (4)	1 (1)	4 (4)	
群馬大			1	
宇都宮大	2			
埼玉大	4 (1)	5 (3)	7 (2)	
千葉大	5 (3)	2 (2)	3 (3)	
お茶の水女子大	1 (1)	1 (1)	2 (2)	
電気通信大	1		1 (1)	
国立大	文I	1	2 (1)	3 (2)
	文II	2 (1)	3 (3)	2
	文III	3 (1)	2 (1)	2
	理I	1 (1)	3	5 (5)
	理II	1	2 (1)	
	理III			
	(後期)			
	東京大小計	8 (3)	12 (6)	12 (7)
東京医歯大	2	1 (1)	3 (3)	
東京外語大			2 (1)	
東京学芸大		2 (1)	2 (1)	
東京芸術大		1		
東京工業大	2 (2)	2 (2)	2 (2)	
東京農工大	2 (1)	1	3 (1)	
一橋大	5 (1)	5 (2)	9 (3)	
横浜国立大	3 (1)	3 (1)	4 (3)	
新潟大	3 (2)	1	5 (3)	
金沢大		1	1 (1)	
岐阜大		1		
山梨大		1		
信州大	1 (1)	1		
浜松医科大			1 (1)	
名古屋大	1 (1)	1 (1)	1 (1)	
京都大	11 (6)	6 (3)	7 (4)	
大阪大	5 (4)	2 (1)	1	
神戸大	5 (4)	1 (1)	1	
奈良女子大	1			
鳥取大		1 (1)		
岡山大		1 (1)	1 (1)	
広島大	1	1 (1)		
徳島大		1		
熊本大		1		
国立大学合計	238 (131)	218 (137)	221 (129)	

年度別	25年 3 月	24年 3 月	23年 3 月
大学	合格者数	合格者数	合格者数
札幌医科大			1
岩手県立大			1 (1)
宮城大	3 (2)	2 (2)	2 (2)
国際教養大	1 (1)	2 (1)	2 (1)
福島県医科大	5 (1)	5 (1)	3 (1)
茨城県立医療大		1 (1)	
高崎経済大	1 (1)	2 (2)	3 (3)
首都大東京		3 (2)	
都留文科大	1	1 (1)	2 (2)
静岡県立大		3 (1)	1
神戸市外国語大		1	
兵庫県立大			1
国公立大学合計	11 (5)	20 (11)	16 (10)
国公立大学合計	249 (136)	238 (148)	237 (139)
酪農学園大		1 (1)	
北海道医療大	1		
岩手医科大	5	7	6 (2)
仙台大	1 (1)		
東北学院大	4 (2)	18 (5)	13 (5)
東北工業大	1		3 (2)
東北福祉大		2	1
東北薬科大	5 (1)	5	4 (2)
宮城学院女子大		1	
東北芸術工科大		1	
自治医科大	3 (1)	1 (1)	1 (1)
獨協医科大	1	7	1 (1)
白鷗大		1	
文星芸術大	1		
埼玉医科大	1		
文教大		1	2
埼玉学園大	1		
神田外語大	2 (2)		
帝京平成大			1 (1)
東京歯科大	2		
明海大			1 (1)
青山学院大	8 (4)	11 (6)	3 (2)
亜細亜大		1	
学習院大	2		
北里大	9 (2)		2
杏林大	1	2	2 (1)
慶應義塾大	20 (5)	26 (7)	30 (7)
工学院大		2	
國學院大	1 (1)	4 (3)	
国際基督教大	1 (1)	1 (1)	
国士館大		1	
駒澤大	5 (2)	4 (1)	
芝浦工大	13 (3)	13 (1)	12 (7)
順天堂大	1	1	2
上智大	5 (3)	3 (1)	2 (1)
昭和大	2 (1)	5 (1)	3 (1)
昭和薬科大		1	
成蹊大		2	1
成城大	1	4 (1)	
聖心女子大		1 (1)	
専修大	1	6 (1)	
創価大	3 (3)		
多摩美術大		1	
中央大	65 (16)	61 (8)	70 (25)
津田塾大	5	1 (1)	2
帝京大	1	1 (1)	
東海大	2 (1)	3	
東京医科大		2	
東京慈恵会医大	2	1	
東京女子大	2 (1)	1	2 (1)
東京女子医科大	2 (1)		

年度別	25年 3 月	24年 3 月	23年 3 月
大学	合格者数	合格者数	合格者数
東京工科大			2 (2)
東京電機大	2 (1)	1	1 (1)
東京都市大		2 (1)	1
東京農業大	3 (1)	9 (4)	7 (2)
東京薬科大	1	1	
東京理科大	48 (7)	45 (11)	48 (14)
東邦大	1	1	1
東洋大	2	3	
二松学舎大		1 (1)	
日本大	7 (2)	8	8 (3)
日本医科大	2		1
日本歯科大	5		4
日本獣医生命科学大			2
日本女子大	4 (4)		1 (1)
法政大	21 (8)	12 (4)	25 (6)
星薬大		1	
明治大	60 (18)	59 (8)	51 (11)
明治学院大	2	1	
立教大	86 (7)	5	12 (7)
立正大	1 (1)		
早稲田大	47 (16)	44 (13)	41 (14)
麻布大			1 (1)
神奈川大			2
聖マリアンナ医大		1 (1)	3
金沢医科大	1	1	1
松本歯科大	1		
愛知学院大		1	
中京大		3	
中部大		2	
同志社大	11 (3)	4	6 (1)
立命館大	18 (2)	16 (5)	11 (8)
龍谷大		1	
大阪医科大			1
大阪工業大		6	
関西大	2	1 (1)	
近畿大	1	1	
神戸芸術工科大	1		
神戸女学院大	3 (3)		
久留米大		1	
私立大学合計	510 (124)	435 (90)	397 (131)
大学校			
防衛大学校		1	3 (1)
防衛医科大	2 (1)		
大学校合計	2 (1)	1	3 (1)
専修他			
専修各種			
その他の大学	1 (1)		
専・他合計	1 (1)		
合計	761 (262)	675 (238)	637 (271)

在籍生徒数 平成25年 4 月 8 日 現在  
普通科 1 学年 8 クラス (定員320名)

1 年	323 名	男子 201 名、 女子 122 名
2 年	320 名	男子 193 名、 女子 127 名
3 年	315 名	男子 209 名、 女子 106 名
計	958 名	男子 603 名、 女子 355 名

